

# 環境・安全報告書 2024



旭有機材株式会社

当社の 2023 年度 事業活動における環境・安全に対する取り組みと成果をご報告いたします。

## CONTENTS

1. 環境・安全に対する基本姿勢
2. 環境保全活動の取り組み
3. 労働安全衛生活動の取り組み
4. 健康の保持と増進の取り組み
5. 保安防災活動の取り組み
6. 製品安全の確保
7. 地域・社会との協調と共生

### 1. 環境・安全に対する基本姿勢

#### 1) 環境・安全に関する経営方針

当社では、環境・安全に関する経営方針を定めており、その方針の下、環境・安全に関する構成要素ごとに目標を定め、達成に向けて社員一丸となり取り組んでいます。

#### 理 念

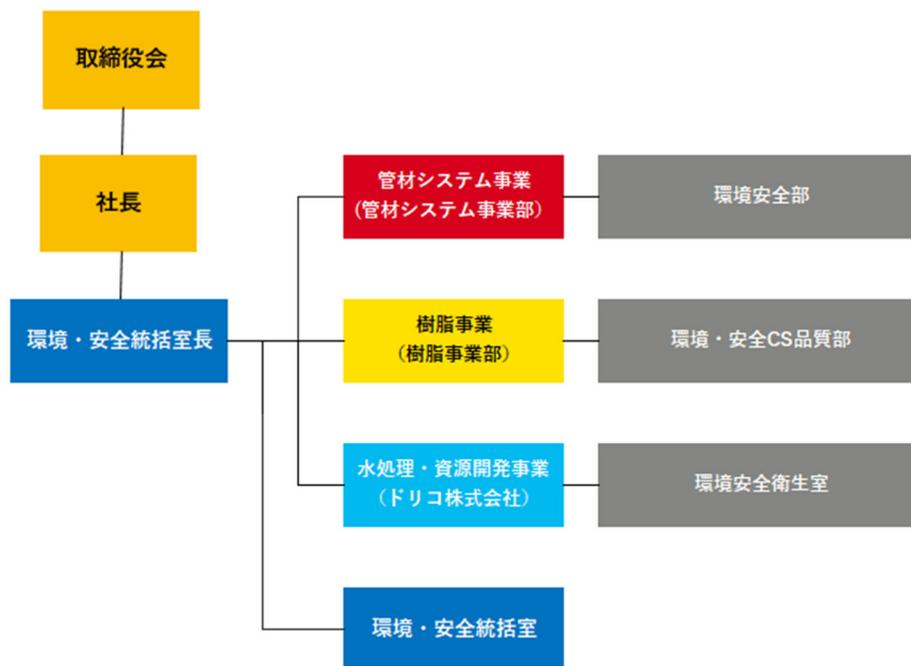
旭有機材グループは、安全を最優先に考えた経営を行うとともに、人々にとってかけがえのない地球環境を保全していくために、企業としての責任を強く自覚し、管材システム事業と樹脂事業製品の開発・製造・提供・廃棄物の処理、および水処理・資源開発事業を含め、環境・安全・健康に配慮した企業活動を積極的かつ継続的に実践します。

#### 方 針

1. 環境保全活動の推進  
製品・サービスの提供に関わるすべての事業活動を通じて、気候変動等への対応をはじめとする環境保全に積極的に取り組みます。
2. 安全衛生活動の推進  
安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。
3. 健康の保持と増進  
快適な職場環境の実現に努め、健康経営で健康の保持増進を図ります。
4. 保安防災活動の推進  
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。
5. 製品安全の確保  
製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と品質管理を徹底し、製品の安全性を確保します。
6. 法令と約束の順守  
環境及び安全管理に係る法令・諸規則や社内ルールをよく理解し、これを遵守します。

## 2) 環境・安全に関する社内推進体制

当社グループでは環境・安全統括室長の下、環境・安全活動を統括しています。



※) 組織名称は 2024 年 9 月現在

## 3) 環境・安全に関する重点課題

当社グループでは「環境・安全に関する経営方針」の下、以下の重点課題を掲げておりさらに重点課題に基づいたそれぞれの環境・安全に関する目標を設定し取り組んでいます。

項目	重点課題
環境保全	① ゼロエミッションとサーキュラーエコノミーに向けた取り組み ② カーボンニュートラルに向けた取り組み ③ 環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減 ④ 水資源の有効活用 ⑤ 地域貢献活動の推進
化学物質	① 生産活動における有害化学物質の適正な管理 ② 化学物質による環境負荷の低減 ③ 製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃
安全衛生・健康	① 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進 ② リスクアセスメントによる設備・機械の本質安全化の追求 ③ 管理監督者の率先垂範による自主的な安全活動の実践 ④ 日常的な安全活動「教育、HHK（ヒヤリハットキガカリ）、KYT（危険予知トレーニング）」 ⑤ 健康経営推進プロジェクトによる健康保持増進等の推進
保安防災	① 安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上 ② 感染症対策 ② 緊急時のための効果的な実地訓練の実施

## 2. 環境保全活動の取り組み

当社は ISO14001 環境マネジメントシステムをベースに環境保全に取り組んでいます。

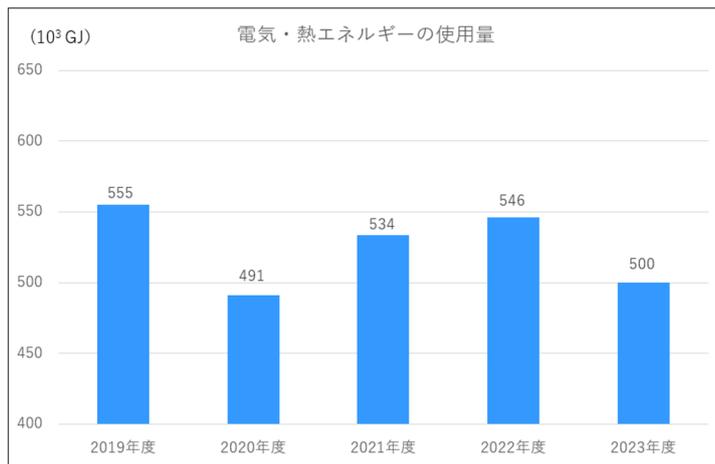
その結果、これまでは各種エネルギー使用量の削減、それらの消費原単位の改善、廃棄物の削減等、成果を上げてきましたが 2023 年度は 2022 年度と比較し、延岡工場内の熱硬化性成形材料部門を閉鎖したこともあり、特に電気・熱エネルギーの使用量が減少しました。

### 1) エネルギー使用量

#### ・電気・熱エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する電気・熱エネルギーは、500 千 GJ と、昨年度に比べ約 46 千 GJ (8.5%) 減少しました。

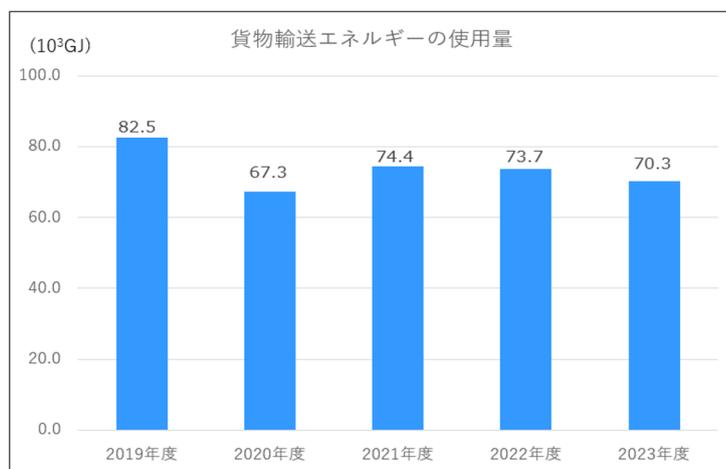
※) エネルギー使用量は、換算係数により GJ へ換算。



#### ・貨物輸送エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する貨物・輸送エネルギーは、約 70.3 千 GJ と、昨年に比べ 3.4 千 GJ (4.6%) 減少しました。

※) エネルギー使用量は、換算係数により GJ へ換算。



### 2) 省エネルギーと地球温暖化防止

#### ・電気・熱エネルギー消費原単位の削減

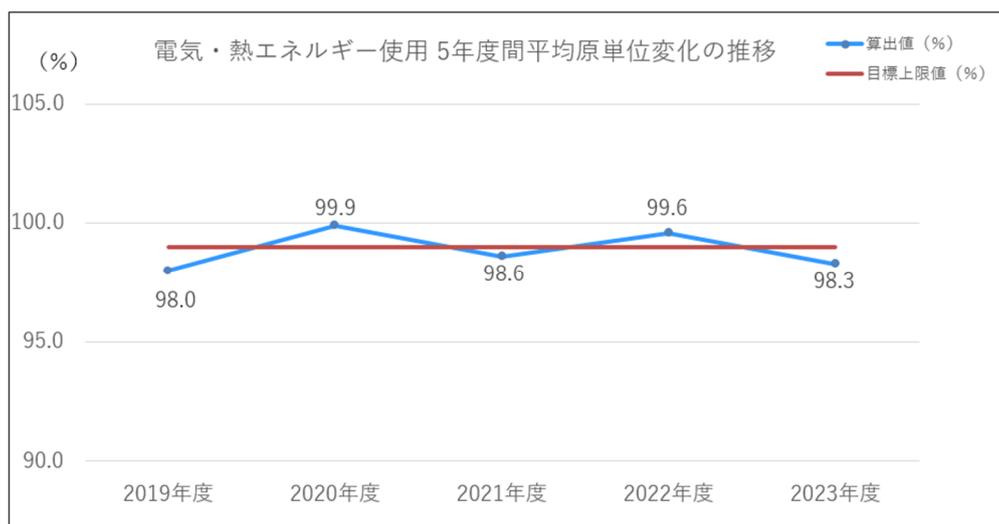
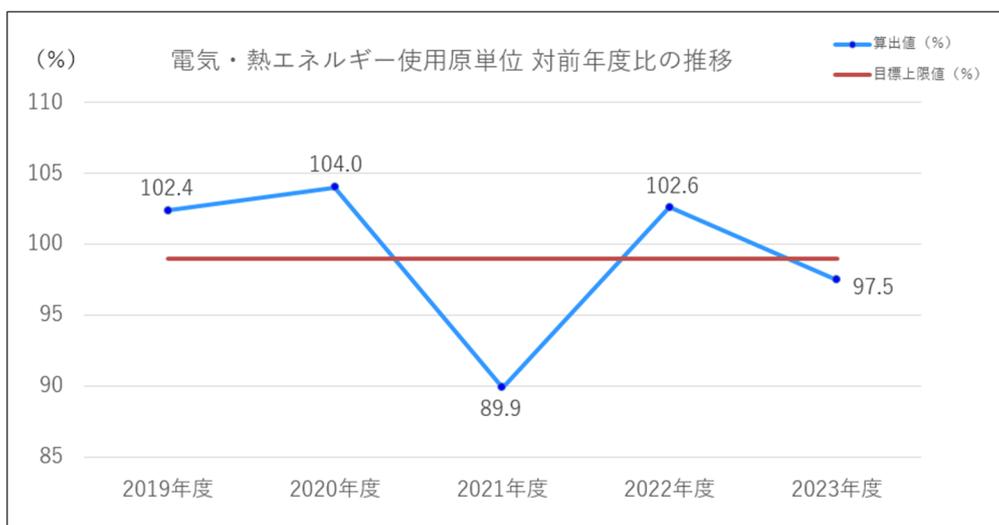
当社は「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーの転換等に関する法律」(以下、省エネ法)における「特定事業者」に指定されており、九州経済産業局に毎年、電気・熱エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。

特定事業者は電気・熱エネルギー消費原単位の対前年度比 1% 以上、及び中長期的にみた年平均 1% 以上低減への努力が求められています。

2023 年度の原単位は、対前年度比で 2.5% 減少し、また 5 年度間平均原単位変化についても、2022 年度に比べ 1.7% の低減だったため目標値の 1% 以上削減を達成しました。これまで当社は計画的に省エネ関連投資を実施してきており、2023 年度においても射出成形機などの省エネ設備の導入を中心にエネルギー効率の向上を図ってお

り、さらに熱硬化性成形材料部門を閉鎖したことも影響し目標を達成しました。

2024年度も、さらに省エネ法における特定事業者に課せられた努力義務を果たせるよう電気・熱エネルギーの消費効率の改善に努めます。

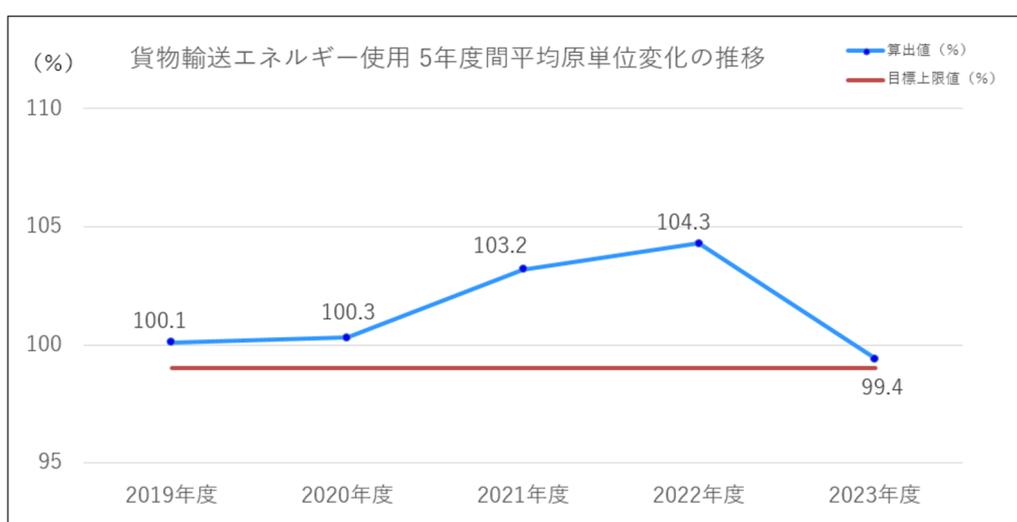
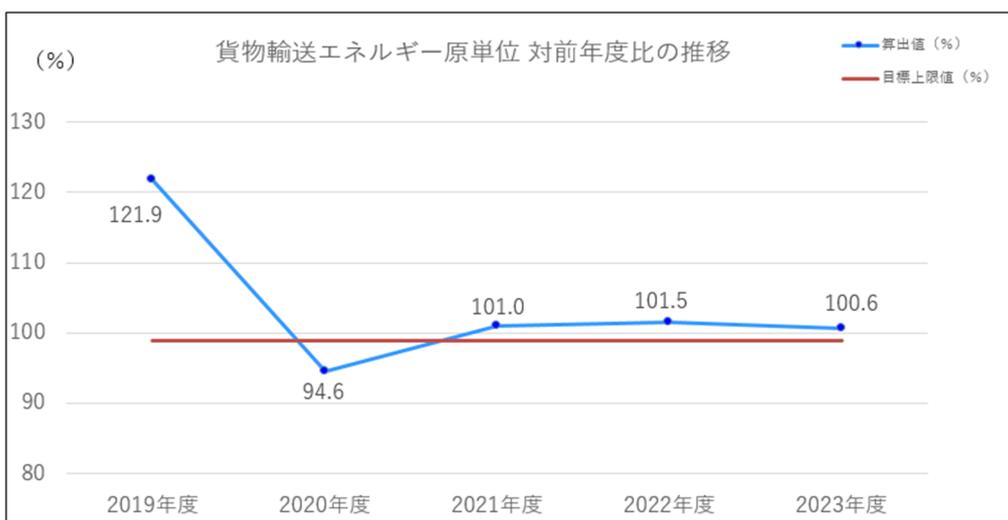


#### ・貨物輸送エネルギー消費原単位の削減

当社は省エネ法における「特定荷主」に指定されており、九州経済産業局に毎年貨物輸送エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。

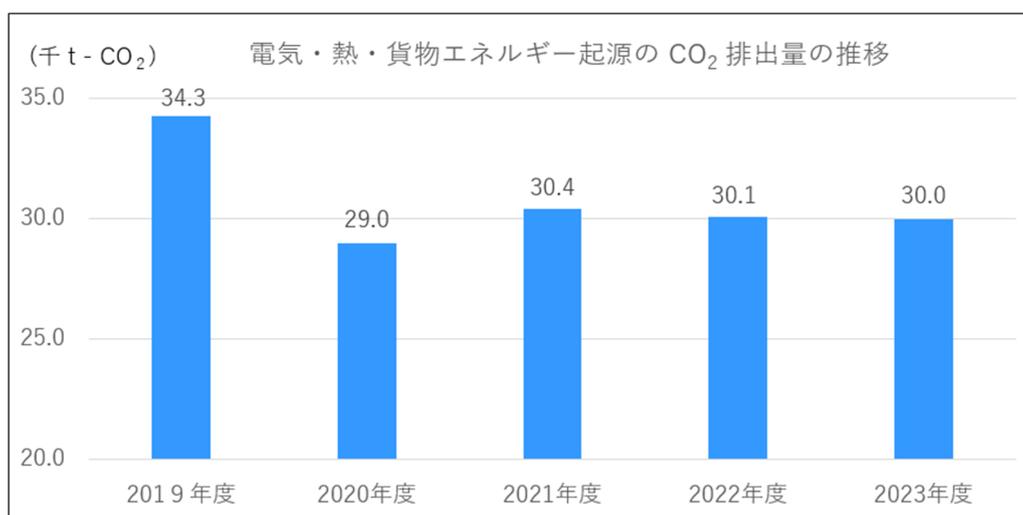
特定荷主は、貨物輸送エネルギー消費原単位の対前年度比1%以上、及び中長期的にみた年平均1%以上低減への努力が求められています。

2023年度の原単位は対前年度比で0.6%増加し、5年度間平均原単位変化については0.6%減少となり共に1%以下削減の目標を達成できませんでした。この理由は主に生産量減少に伴い全社としての輸送エネルギー原単位の高い製品の構成比率が増加したため、これまでも積載率の向上、配送車両の大型化、JR輸送への転換を図ってきましたが、2024年度は、省エネ法における特定荷主に課せられた努力義務を果たせるようさらに物流効率の改善に努めます。



### ・電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量の削減

省エネ法に基づく 2023 年度の当社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO<sub>2</sub> の排出量は、30.0 千 t-CO<sub>2</sub> となり、2022 年度と比べ 0.2% 減少しました。これまで取り組んできた設備に使用する燃料の転換、高効率な設備への変更、CO<sub>2</sub> 排出係数の少ない電力への変更の取り組み、及び物流の効率化等、積極的な省エネ活動の実施が寄与したことで若干 CO<sub>2</sub> 排出量は抑えられましたが、電力会社の電気使用量を CO<sub>2</sub> に換算する排出係数が 2023 年度は 2022 年度より大きくなったため(九州電力 38%増など)、若干の減少にとどまりました。



・フロン漏洩防止

当社は、フロン設備の点検・整備、廃棄時における回収の徹底など、フロン排出抑制法を順守し、制御盤クーラーをはじめ、各種設備のノンフロン化を促進することで、フロン類の漏洩防止に努めています。

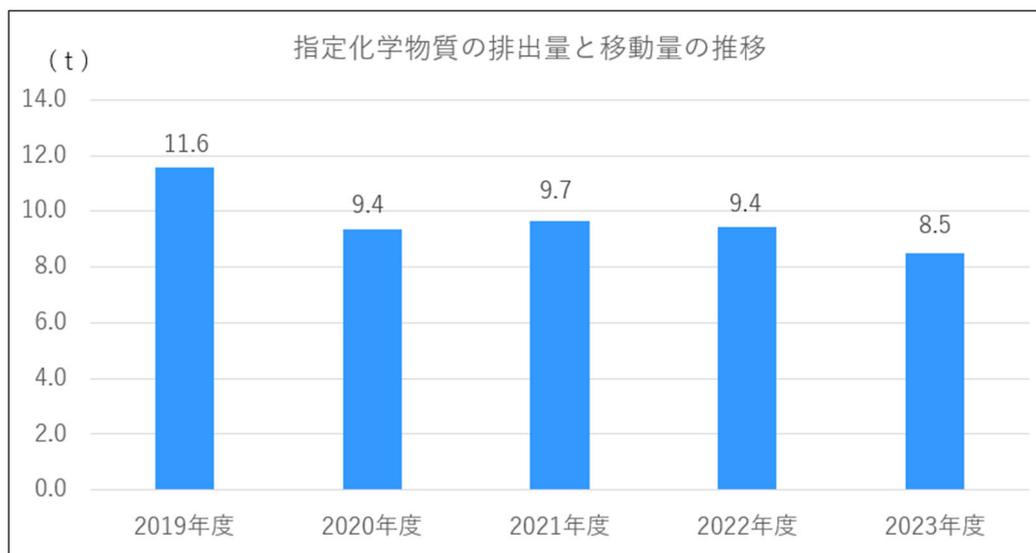
3) 環境保全

・指定化学物質の排出量、移動量、及びその低減対策

化学物質管理促進法により指定されている化学物質の当社における排出量、及び移動量は、2022年度と比べ2023年度は9.9%減少しました。

当社では指定化学物質を含む原材料が入っている廃棄物量の削減を推進しており、今後も指定化学物質を適正に管理すると共に排出量・移動量の削減に努めます。

※) 化学物質管理促進法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律



P R T Rに基づき当社が管理している指定化学物質

工場	指定化学物質名称
延岡工場	有機スズ化合物、鉛及びその化合物、アンチモン及びその化合物、ヘキサメチレンテトラミン、フェノール、ジシクロペンタジエン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート
愛知工場	亜鉛の水溶性化合物、ビスフェノール A、エピクロロヒドリン、2,4 キシレノール、2,6 キシレノール、キシレン、クメン、グリオキサール、クレゾール、1,4 ジオキサン、N,N ジメチルホルムアミド、ヘキサメチレンテトラミン、テトラエチレンペンタミン、トリエチルアミン、1,2,4 トリメチルベンゼン、1,3,5 トリメチルベンゼン、ナフタレン、フェノール、ホルムアルデヒド、メチルナフタレン、メチレンビス(4,1-フェニレン)、リン酸トリノルマルブチル、鉛化合物、2-エチルヘキサン酸、カプロラクタム、酢酸マンガ、ダイオキシン類、DMF
栃木工場	ヘキサメチレンテトラミン、有機スズ化合物、鉛及びその化合物、ダイオキシン類
広島工場	ヘキサメチレンテトラミン、ダイオキシン類

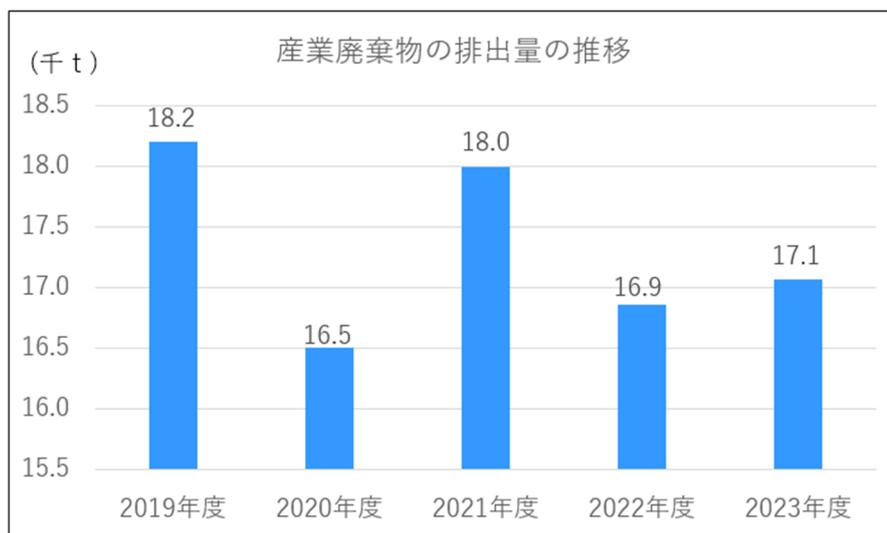
※) PRTRとは、化管法により指定されている化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

### ・産業廃棄物の総排出量

当社は、産業廃棄物を削減するための代表的な取り組みである4R（抑制・削減・再利用・再資源）により、産業廃棄物の総排出量の削減、発生した産業廃棄物の有効利用、及び総排出量から単純（埋立）処分される産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）を推進しています。

2023年度の総排出量の実績は17.1千tとなり、2022年度と比べ1.2%増加しました。

今後とも更なる廃棄物の排出量抑制に努めていきます。



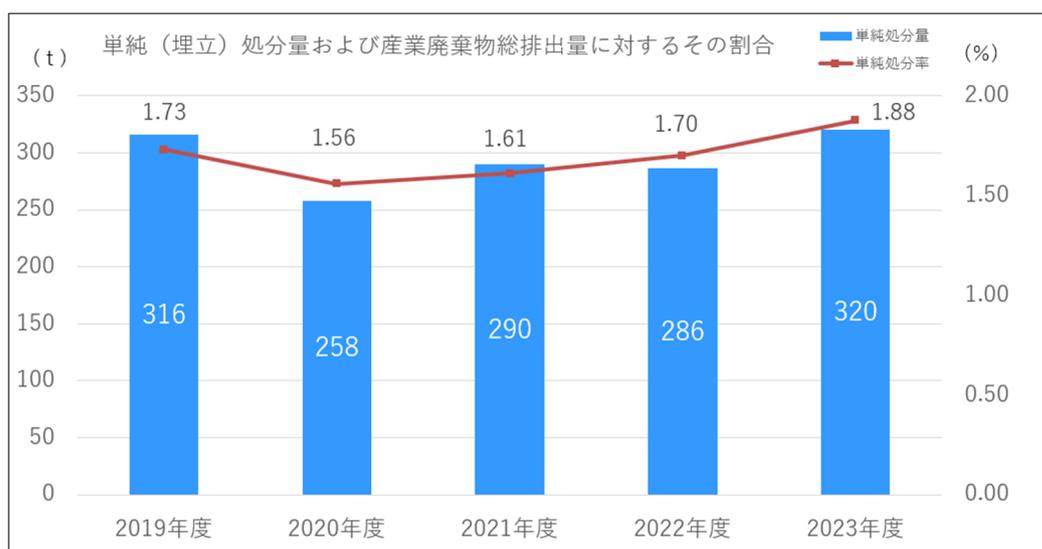
### ・産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量

2023年度の単純（埋立）処分量は、2022年度に比べ11.9%増加し、さらに単純処分率（産業廃棄物総排出量に対する単純処分量の割合）も10.5%増加しました。

単純（埋立）処分量の低減等に向けた当社の主な取り組みとしては、

- ・4R（抑制・削減・再利用・再資源）の徹底
- ・産業廃棄物の分別による有価物化
- ・市場での有効利用に関するニーズ探索

を推進しています。さらに今後、環境負荷の大きい単純処分率を1%以下に抑えるよう努めます。

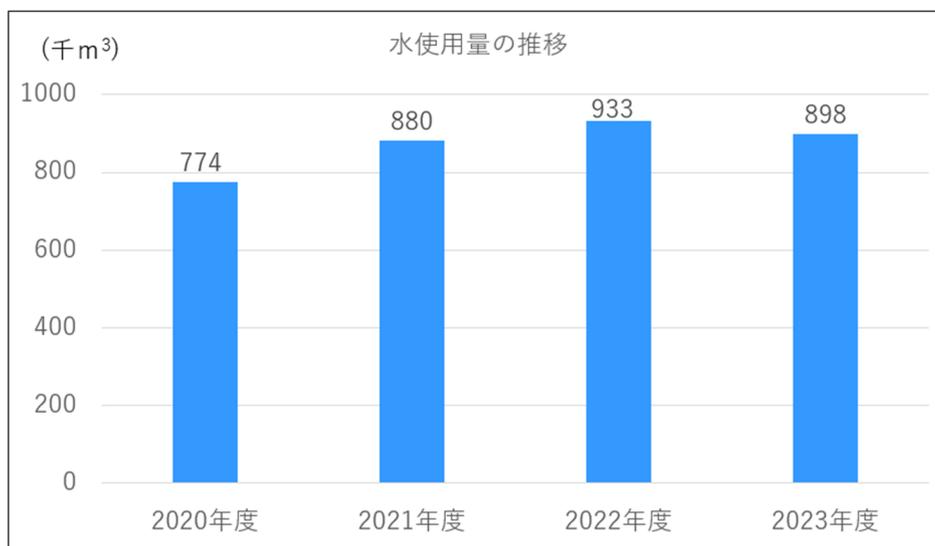


## ・水資源の保全

旭有機材の工場等で使用する水には工業用水、地下水、上水道があります。

2023年度の水使用量は、2022年度に比べ3.7%減少しました。

用途としては製造設備の冷却水が主なので生産量に依存しますが、循環再利用などの工夫により水の使用量の削減に取り組んでいます。今後も効率的な使用に努め水資源の保全を進めます。



## 3. 労働安全衛生活動の取り組み

### 1) 安全衛生活動の取り組み

#### ・安全衛生活動の方針

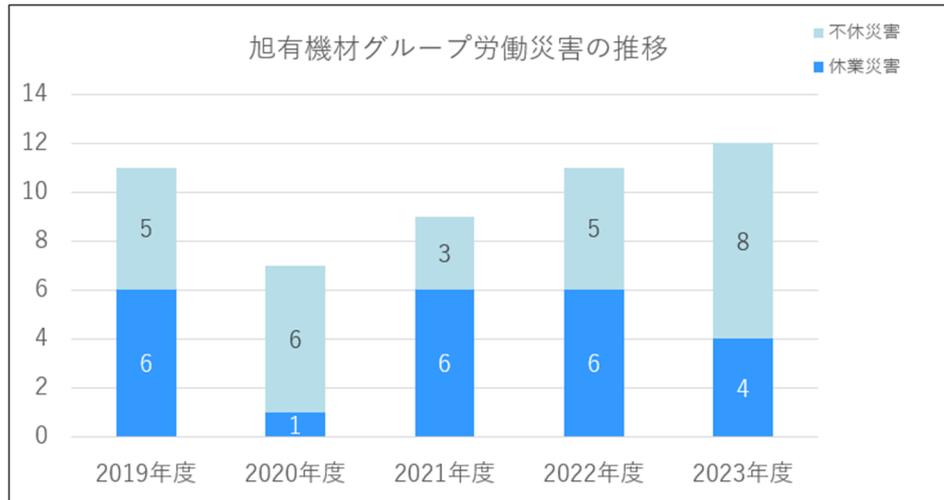
私たちが働く旭有機材グループは、安全を最優先に考え行動し心身ともに健康で安心して生き活きと働くことができる職場環境を築きます。

### 2) 労働災害

#### ・当社グループの労働災害発生件数

2023年度の労働災害発生件数はグループ全体で12件と前年(11件)に比べ増加しましたが休業災害は4件と前年(6件)に比べ減少しました。そのため休業災害度数率は、グループ全体で0.91と前年(1.45)に比べ減少しました。ただプラスチック製造業平均と比較すると大きな数字となっていますので、このような状況を改善することを含め当社グループでは安全を最優先と考え行動しています。重点活動としては、「心とからだの健康づくり」、「安全な人づくり」、「安全な場づくり」、「快適な職場環境づくり」という4つの視点から「社員と会社が一体となった心身両面の健康保持増進」、「安全のためのコミュニケーションの促進」、「5S・リスクアセスメント・設備改善による本質安全の実現」、「積極的にみんなで取り組む職場環境の改善」など、具体的な安全活動の実施による労働災害の防止に取り組んでいます。

また2023年度も昨年に引き続き、国内製造工場全てを対象とした安全パトロールを実施するなど、日常的な安全活動を通して安全な風土づくりに努めています。



		実績値				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
休業災害発生件数	単 独	1	1	3	1	0
	グ ル ー プ 会 社	5	0	3	5	4
	連 結 合 計	6	1	6	6	4
不休災害件数	単 独	2	3	0	4	4
	グ ル ー プ 会 社	3	3	3	1	4
	連 結 合 計	5	6	3	5	8
休業災害度数率	単 独	0.61	0.60	1.75	0.54	0.51
	連 結 合 計	1.27	0.26	1.55	1.45	0.91
	※ (参考)プラスチック製造業平均	0.32	0.31	0.31	0.08	0.15
全災害度数率	単 独	1.82	2.38	1.75	2.72	2.06
	連 結 合 計	2.79	1.81	2.32	2.65	2.74

※) プラスチック製造業平均休業災害度数率は、各年の1月～12月分を調査されたものです。

出典\_労働災害動向調査(厚生労働省)

旭有機材データは年度データ(例 2023年度\_2023年4月～2024年3月)です。

## ・全国安全衛生徹底大会

2024年4月、「第19回 全国安全衛生徹底大会」を、「キガカリのうちから対策」という事をキーワードとし、愛知をメイン会場として東京、延岡、栃木、広島の各拠点をWEB会議システムで接続し開催しました。特に「安全」と「衛生」を両輪と捉える中、一人ひとりの心とからだの健康増進を図る為には、「キガカリ意識」を強く持ち、再発防止⇒未然防止へ対策を進めていくという考え方を管理者と共有しましたが、その為のポイントとなるのが、「笑顔のコミュニケーション」であり、それをどのように実践に繋げていけば良いかなどについて外部講師に特別講演をして頂きました。1つは健康経営プロジェクトの取組みで統括保健師の永松希望様に、「職場における健康管理」を、もう1つはもろかみ労働安全衛生コンサルタント事務所の加藤善士様に、「コミュニケーションによる共有(職場環境改善はコミュニケーションから)」というテーマで講演頂きました。



特別講演① 統括保健師 永松希望様



特別講演② 労働安全衛生コンサルタント 加藤善士様



安全行動 5 原則の唱和

またドリコ株式会社では、2023年7月、「ドリコ 安全と健康を守る会 定時総会」「ドリコ株式会社安全大会」を開催しました。当日はWEB 会議システムによる安全講話、安全表彰、及び安全標語の投票結果などが発表され安全宣言（安全の誓い）が行われました。



ドリコ株式会社安全大会風景



ヒヤリをハッと感じたら 言葉にしようその気持ち  
**あなたの気付きがみんなの安全**

採択された安全標語

## ・経営者による安全衛生ラウンド

当社の国内すべての製造工場を対象とした社長安全衛生ラウンドを、2023年6月に栃木工場、続いて広島工場、愛知工場、延岡工場の順に7月に実施しました。特に昨年より、従来の安全パトロールをラウンド(医療用語にちなんだ巡回)と名称を変え、コミュニケーションを重視した安全衛生ラウンドを行っています。

2023年度は、「安全・安心・快適な職場環境作り」をテーマとして、各工場構内での実践状況や、最近の事故災害に関する対策・横展開状況などの報告を行いました。さらに、本年度は産業医、保健師にも参加していただき、安全衛生の専門家としての視点で評価していただいたことにより、新たな視点での議論を通じ安全意識の向上が図れた有意義なラウンドでした。



ラウンド風景 (栃木)



ラウンド風景 (広島)



ラウンド風景 (愛知)



ラウンド風景 (延岡)



さらに本年も GUPPY 社主催の東海道五十次ウォークラリーに旭有機材として参加しました。このラリーは会社毎の団体戦として会社間で 1 カ月間歩数を競う競技で、一定の歩数を経過するとアプリ上で東海道の宿場をめぐる競技です。このようにいろいろな工夫をすることにより、確実に健康のためにウォーキングをする風土が醸成されてきています。その結果として、健康づくりを日常の話題としたコミュニケーションも活性化され一体感も生まれつつあります。このような取り組みを継続し今後も健康な職場づくりを推進していきます。



地域対抗ウォークラリー

#### ・メンタルヘルス講演会

当社は社員のメンタルヘルスケアに力を入れており、2012 年度から毎年、当社産業医でもある赤坂診療所長の 渡辺登 先生をお招きしメンタルヘルス講演会を行っています。2023 年度も WEB にて 9 月に実施しました。今年度は、「ホルモンとメンタルヘルスの関係」について、健康生活につながる重要なお話をいただきました。また、当社の社報である+POWER(プラスパワー)に、毎月「メンタルヘルスアドバイス」と題するコラムを執筆していただいております。2012 年以来、当社社員のメンタルヘルスケアにご尽力していただいております。



メンタルヘルス講演会の WEB 画面

## ・健康測定

2023年12月、社員の健康に対する意識向上のため、公益財団 福岡労働衛生研究所様による健康測定を実施しました。測定項目は、ファンクションリーチ、座位ステッピングテスト、2ステップテスト、閉眼・開眼片足立ち、片足筋力測定、体制分測定、立ち上がりテスト、血管年齢測定、骨密度測定の9つで、それぞれ全国平均と比較することで自分の立ち位置を確認し、今後の運動等に活用できるよう役立てています。



健康測定風景



健康測定結果の説明風景

## 5. 保安防災への取り組み

### 1) 保安防災に関する基本方針

当社グループは、安定操業の維持と保安防災管理のレベルの向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保するために保安防災活動を推進しています。

特に人命第一の思想の下、緊急時対応のための訓練を毎年全工場にて実施しています。

### 2) 取り組み事例

#### ・消防競練会への参加

愛知工場では、2023年10月 丹羽広域事務組合消防本部予防課様による消防技術競練会に参加し、社員の防災意識の向上に取り組みました。この競練会は、火災発生通報、けが人の救出、消火器による初期消火、活動報告までの一連の動作の時間や正確性を競いながら防災意識を向上させる取り組みで、女性の部で当社社員が準優勝いたしました。



競練会風景（愛知）



消防長賞受賞（愛知）

また、愛知工場および栃木工場が11月、延岡工場では、2023年12月に、地震発生および工場火災発生時の対応訓練を目的として、避難訓練、消火訓練を実施しました。



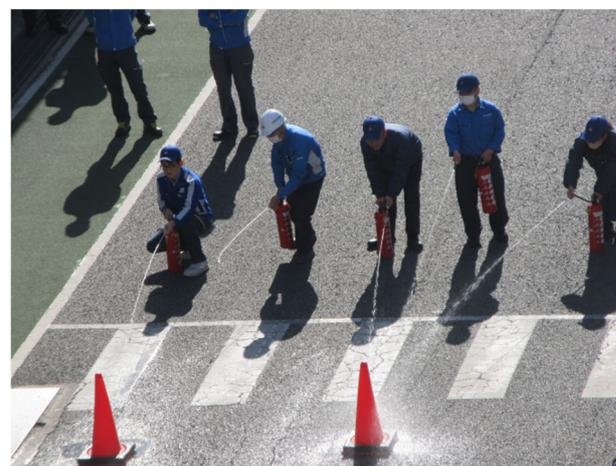
消火訓練風景（愛知）



消火訓練風景（栃木）



避難訓練風景（延岡）



消火訓練風景（延岡）

## ・シェークアウト訓練

当社では地震などの自然災害に備え緊急地震速報装置を設置しており、緊急地震速報訓練と連携した「シェークアウト訓練」を定期的を実施しています。これは地震が発生したときに安全確保行動1-2-3「まず低く頭を守り、動かない」を身につける訓練であり、いざという時に備えておくために必要不可欠なことです。

2023年度も例年通り消防庁などの行政機関の呼びかけに応じ愛知工場、栃木工場、広島工場にて10月に実施しました。



## 6. 製品安全の確保

### 1) 製品安全に関する基本方針

当社グループは、「信頼の品質」と「真摯な対応」を通じて満足していただける製品・サービスの提供に努めており、より優れた、より安全な製品・サービスの提供を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することを目指しています。

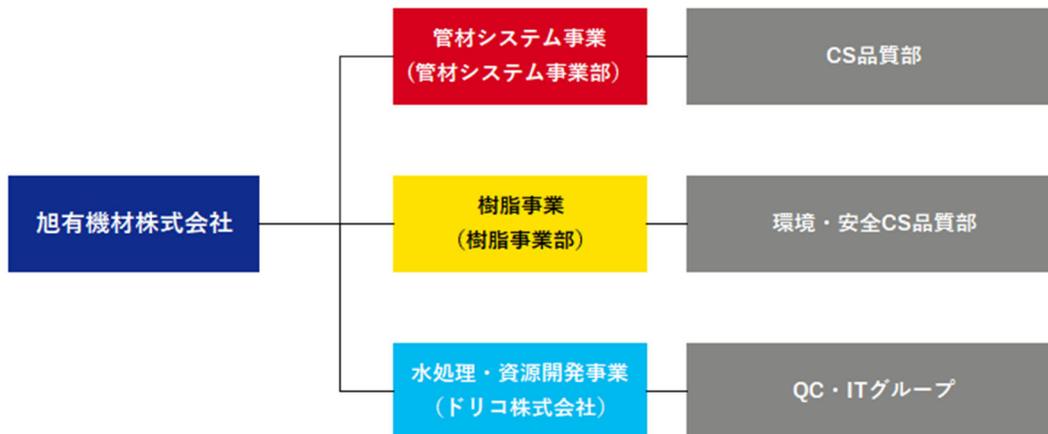
#### 製品安全に関する基本方針

顧客の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人間の幸福と社会の発展に寄与する。

- 顧客の立場で製品を開発すること。
- 技術を錬磨し、品質管理を徹底して、ものづくりをすること。
- 製品を正しく安全に使っていただく営業を実践すること。
- 製品がその効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること。

### 2) 製品安全に関する社内推進体制

当社は事業部に品質保証部門を設置し、ISO9001 品質マネジメントシステムをベースに品質保証・製品安全体制を構築し、お客様のお役立ちを第一に考えるものづくりに取り組んでいます。



※) 組織名称は2024年9月現在

### 3) 製品安全に関する取り組み

#### ・品質工学による取り組み

品質の大本（上流）である設計・開発に起因するトラブルを撲滅するために、2018年9月より「品質工学」への取り組みをスタートし、社外専門家である株式会社ジェダイト 鶴田明三先生をお招きし毎月「品質工学インハウスセミナー」を開催しています。2023年度は第5期目となり、累計で32名が受講しました。



株式会社ジェダイト  
鶴田明三 先生（中央）

## 7. 地域・社会との協調と共生

### 1) 地域・社会との協調と共生に関する基本方針

当社は、旭有機材行動規範の実践すべきことの中の「社会への貢献」の理念の下、積極的に地域との交流活動を行っていますが2020年度以降、新型コロナウイルスの影響で地域との関わりは自粛せざるを得ない状況が続いていましたが、昨年度より地域祭りへの参加などコロナ以前の取り組みが復活してきました。

### 2) 取り組み事例

#### ・工場周辺の清掃活動

工場周辺地域の方たちが工場周辺にいらしても不快な思いをされないよう、工場周辺の清掃など美化活動を定期的に行っています。延岡工場では 2023年4月、10月 愛知工場では、2023年5月に実施しました。



延岡工場の清掃活動風景



愛知工場の清掃活動風景

### ・救命救急入門コースの支援

通報から救急車が到着するまでの間に救命処置を行う「応急手当普及員」の資格を取得している当社愛知工場の社員が丹羽消防署主宰の「救命救急入門コース」開催の支援を行っています。

2023年度は10月 愛知県の扶桑中学校、12月 扶桑北中学校と2校にてAEDの使い方など、救命救助法の始動を支援しました。



応急手当講習の様子

### ・インドネシアからの実習生受け入れ

当社は外国人技能実習制度を活用し、現在インドネシアからの実習生を3期計25名受け入れています。

- ・一期生 8名 2019年1月入社
- ・二期生 8名 2020年1月入社
- ・三期生 9名 2023年7月入社

当制度の目的は日本の技能や技術を新興国に移転し現地の人財づくりに寄与することであり、また当社にとっても貴重な若手人財を獲得できるメリットがあり、教育・実習を行っています。これまで8名が実習を終了し帰国しましたが、現在は17名が元気で実習を続けています。



実習生

### ・献血活動

当社延岡工場では、国内で使用される血液製剤のすべてを献血により賄うという国の方針に沿って取り組んでいる、宮崎県赤十字センター様の献血推進活動に協力しています。

2023年度は、延岡工場構内で4月、10月に献血を行い、計100名の目標に対して109名が受付し、98名がそれぞれ400mlの献血を実施しました。また、愛知工場では2023年6月に、目標30名に対し、16名が受付し、13名が400mlの献血を行いました。



延岡工場での献血風景

### ・新「ゆうきの森・上三輪」第二期植樹活動

当社は宮崎県が取り組んでいる「企業の森づくり」に2008年より参画しており、第二期植樹活動として延岡市上三輪町（かみみわまち）での森林整備に取り組んでいます。

2020年～2022年の3年間は新型コロナウイルスの影響で中止していましたが、2023年度は4月に第3回植樹活動を開催しました。

なお、これまでの「ゆうきの森・上三輪」植林による2023年度二酸化炭素吸収量は、宮崎県の認証によれば、7.25t-CO<sub>2</sub> / 年でした。



ゆうきの森植林風景

### ・地域の夏祭りへの参画

当社の宮崎県延岡地区、栃木県大田原市では地域活性化活動の一環として夏祭りに参加していますが、2020年～2022年の3年間は新型コロナの影響で中止されていましたが、2023年度より再開されました。

延岡市の「第46回 まつりのべおか」は2023年7月に開催され、当社社員約90名が参加し「ばんば踊り」を踊り、太鼓競演会や花火大会なども開催されました。

また、栃木工場がある大田原市では「第40回 与一祭り」が2023年8月に開催され、約40名の当社社員が参加し「与一踊り」を踊りました。



まつりのべおかの風景（延岡市）



与一祭りの風景（大田原市）

発行日 2024年9月  
旭有機材株式会社